

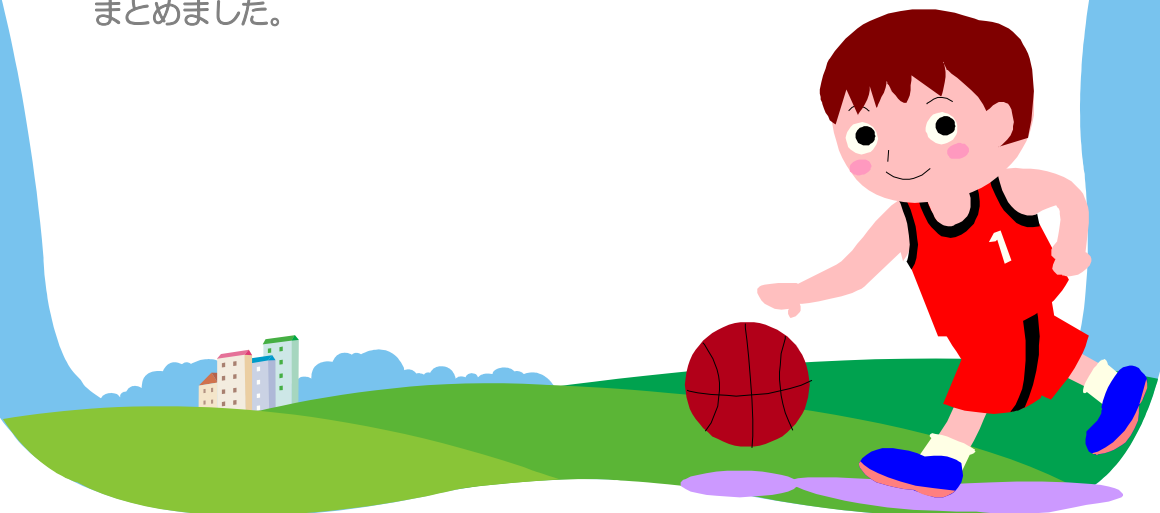
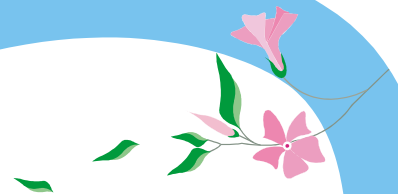
子育て問答集

「しつけ・性格」

子育てで直面する様々な悩み・・・。

初めての子はもちろんのこと、兄弟姉妹であっても、子どもは一人一人違うだけに、悩みも様々です。

このコーナーは、幼稚園・保育園で数多くの子どもたちの面倒を見てきたベテラン教師たちが「よくある悩みへの回答集」という形でまとめました。



目 次

母親がすすめる洋服は着ようとしません	3
叱られた途端に物を投げつけてきたので驚いてしまいました	4
一人で欲しい物を買わせてもよいでしょうか.....	5
お友達におもちゃを貸せません.....	6
指しゃぶりが気になります	7
思いやりのある子に育てほしい	8
たくましい子どもに育てたいのですが	9
うちの子はわがままなのでしょうか?	10
臆病なのか、すぐ泣き出してしまいます	11
何をするにも消極的です.....	12
片付けができません。自分の事は自分でさせたいのですが	13
片づけなくて困ります	14
夜泣きをするので困っています.....	15
何をする時も「いやだ」を連発して困っています.....	16
いつまでも母親にべったりしています	17
ビデオデッキをおもちゃ代わりにさせてもよいですか	18
私の考えは間違っているのでしょうか	19
自分でやってみないと気が済みません.....	20
爪噛みが.....	21
道にとびだして困ります.....	22
わが子の行動が許せない.....	23
急に言うことを聞かなくなってしまう	24
急に母親から離れなくなった長男	25

Question

母親がすすめる洋服は着ようとしません

4歳の女の子です。タンスの中にはいろいろな洋服が入っていて、いろいろ着てほしいと思っているのですが、自分の気に入った洋服しか着ません。どうしたら着てくれるでしょう。

Answer

特に女の子は、自分の好きな洋服にこだわりがあるようですね。自分の好きな色であったり、着安かったり、遊びやすかったりなどが理由でしょうか。

親の欲目でせっかく買ったのだから・・・1回や2回は着てほしいという願いはあるでしょうが、親の思いが全て受け入れられないこともあります。子どもの気持ちをわかってあげることも大切です。

TPOを考えて選びましょう

育ち盛りのこの時期の衣服は、活動的で機能的なものがいいですね。特に遊び着は動きやすいものがいいですね。

最近は大人と同じようなロングスカートをはいたり、ブランド品のおしゃれ着も見られます。しかし、雲梯やジャングルジムなどは登り下りにくい危険です。また、縄跳びもとべません。子どもさえいやがることがなければ、清潔第一ですから、毎日洗濯のきく体に合った機能的な洋服にしてあげることを進めます。

お母さんのアイデアでお気に入りのふやしましょう

お母さんが余り布でスカートを作ったり、シンプルなトレーナーにアップリケや刺しゅうを入れたりするだけで「世界でたった一つしかないもの」と喜ぶものです。きっと自分らしさを発揮して、もっと元気にのびのびと遊ぶようになるものと思います。

お出掛けの時などはお子さんと相談しながら、目一杯好きな洋服で出掛けることで、気分も転換できたりおしゃれをする楽しみも増えてくるかもしれませんね。
(藤倉)

Question

叱られた途端に物を投げつけてきたので驚いてしまいました

1歳5カ月の次男です。怪我につながるような危険なことをしたので叱ったら急に怒り出してしまいテーブルの上にあったものを手当たり次第に投げつけました。今までおとなしかったわが子の変貌ぶりに、唖然となるばかりです。

Answer

1歳5カ月といえば、あんよもできるようになり何に対しても興味を持ち、行動も活発になって来る頃でしょうね。それと同時に危険なこともたくさん出てきます。

お子さんはただ興味を持って、触ったり、上ったり、口に入れてみたりしただけなのに、お母さんが急に大きな声で叱るものですからびっくりして、パニックを起こしてしまったのではないのでしょうか？少し様子を見てみましょう。

心の成長発達を知り適切な対応をしていきましょう

今まで可愛いと思って接してきた赤ちゃんが、急に駄々をこねてお母さんを困らせるようになってしまったということはよくあります。情緒的な葛藤が現れてきたのです。1歳を過ぎる頃になると自分の思い通りにならないと駄々をこねたり、「いや」という言葉を使って拒否が始まったりします。また、「いけない」と言われるとかえってやりだすという姿も見られます。

例えば、寒い日なのに上着を着るのを嫌がったり、靴を履かずに道路を歩きたがったり、今まで飲んでた牛乳をわざと口から出してみたり、等々数多くみられるようになります。お子さんの気持ちを代弁しながらうまくこちら側のペースに持って行くことです。「牛乳イヤなのね。お母さんが飲んでみるよ。わあーおいしい。乾杯して飲もうか」「カンパイ！！」などお母さんのかかわりを工夫してみるのも一つです。

子どもの感情をうまくリードしてあげましょう。

しつけは環境づくりからはじめましょう

探索行動がますます活発になってくるお子さんを叱ってばかりいては、豊かな心が育ちません。○危険なものを片付ける○大切な物は手の届かない場所にしまう○ガスレンジや包丁、炊飯器、電気ポット等は整理整頓して生命を守る安全な環境かどうか家の中を見直してみましょう。

お母さんのちょっとした不注意で大きな事故につながる場合があります。自我が出てきたこの時期は、オロオロせずに、愛情を持って、お子さんのありのままを受け止めて行きましょう。(梶原)



Question

一人で欲しい物を買わせてもよいでしょうか

5歳の男の子です。家でおやつを与えているのですが、急に「アイスが食べたいのでお金をちょうだい。自分で買ってくる。」と言い出しました。今までお金を持たせたことがないのでどのようにしたらよいかわかりません。

Answer

暑いのでアイスが急に食べ炊くなったのでしょうか。お金で物が買えることに気づいたことと、自分で買ってきたという気持ちが現れたのですね。お金に対して興味や関心が出てきたことを大切に、お金の価値や取り扱いを慎重にしたいものです。

買い物と一緒にいきお金の大切さを教えましょう

始めは買い物に連れて行き、一緒に選んだり買ったりしながら、値段があることや買い方も「何を、幾つで、いくらお金が必要」なのか等、お子さんと会話をしながら丁寧に行いましょう。

お子さんが欲しい物を一つ買うことを約束して、決まったら一人で買わせてみるのもよいでしょう。レジで「くださいな」「いくらですか」等、初めての人と会話をかわすのにも勇気がいるものです。見守って教えてあげましょう。

だんだん欲しい物、買いたい物が出てきますが、必ずお母さんと相談して決めるようにしましょう。お小遣いなど自分でお金を管理することはまだ難しいので、子どもが勝手にお金に触れたりしないよう気をつけましょう。

お母さんが、きちんと家計簿を付けたり、使ったお金を確認したりする姿を見て、お金を大切にする気持ちも育っていくものと思います。

欲しいものを、待つ楽しさを味わいましょう

買い物をすることを覚えたり、友達の買い物に付き合ったりするようになると、友達が持っているものが欲しい、テレビのコマーシャルと同じ物か、考えるゆとりをもち、お金を貯めてから買うとか、誕生日のプレゼントにお父さんに買ってもらうとか工夫して価値的に使いましょう。また、子どもが夢を持ちながら待つ楽しさを味わうのも幼児期ならではの体験だと思います。

何カ月も待って、欲しい物がやっと自分の物になったときの喜びは大きくなって忘れないものです。そして、それが自分の宝物になることもあるのです。(栗田)

Question

お友達におもちゃを貸せません

就学を控えた 5 歳の男の子です。入学したら楽しく学校に行ってほしいと願っていますが、母親として心掛けることはどんなことがあるでしょうか。

Answer

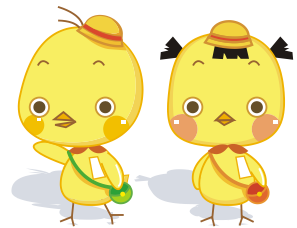
幼稚園に入園するまでは、家庭でおもちゃを取り合うこともなく、一人で思いのままに遊んでいたのではないのでしょうか。幼稚園のおもちゃを見て、自分の遊びたいイメージが膨らみ、一人で自由に楽しみたいのでしょう。まして友達に邪魔されることがとても嫌なのでしょうね。

遊びたい気持ちがいっぱいですね

遊びはまず、一人で遊べることが大切です。

幼稚園という集団生活に慣れてくると、気に入った友達と一緒にいて同じような遊びや行動を楽しむようになります。

気の合う友達と気持ちを出し合って遊べるようになってくるとだんだんにグループや学級など多人数で遊ぶようになり、友達と共に目的をもって遊びに取り組み、満足感や充実感が味わえるようになっていくのです。そのためにも、一人でじっくり遊べることは、とても大切なことなのです。



トラブルが子どもを育てます

4歳では、自分の気持ちを的確に伝えることは難しいことです。お子さんが、お友達に「貸して」と言われても、自分が使おうと思っている気持ちを変えることも難しいことです。

親としては、お友達にも貸してあげられる優しい子に育てて欲しいという願いをもたれることも、よくわかります。でも、お母さんに「貸してあげなさい」と言われ、心から納得して貸してあげられることなどはあまりありません。むしろ、意地になって貸さなくなってしまうことの方が多いのです。

様子を見ていると、おもちゃを取り合ったり、友達が強引に持って行ってしまったり、逆に貸してもらえず悲しい思いをしている友達がいたりします。トラブルを通して、きっといろいろなことを感じていると思います。この体験の積み重ねが、貸してもらえない悲しみや貸してもらった喜びにつながって子どもの心を育てるのです。

幼稚園ではお友達との遊びが楽しくなってくると、多少我慢して、少しずつ自分をコントロールしておもちゃを貸せるようになってきます。あまり焦らずに、じっくりと見守り、お互いの気持ちを言葉にして確認してあげるといいのではないのでしょうか。(林)

Question

指しゃぶりが気になります

長男3歳、長女1歳の母です。長男は赤ちゃんの頃から指しゃぶりをしていましたが、最近はずっと右手の親指をしゃぶっています。あまり外遊びもせず、いつもゴロゴロしていることが多いです。「一人で遊びなさい」と言ってもぐずっているばかりです。

Answer

妹が産まれてから指しゃぶりが激しくなったようですが、お母さんは赤ちゃんの世話を手を取られ、十分甘えられなかったのでしょうか。その欲求不満を解消するために指しゃぶりをしていたのでしょうか。指しゃぶりはお子さんにとって精神安定剤のようなものだったりします。

お兄ちゃんとはいえまだまだ3歳。お母さんを独占したい年齢ですよ。今、気づいた時がチャンス！下の子と一緒に公園などで思いっきり遊んだり、友達と遊ぶ機会を多く持つてはいかがでしょうか。お母さんの愛情と積極的にかかわってくれる姿にいつしか指しゃぶりも忘れ、遊ぶ楽しさもわかってくるのではないのでしょうか。

日中の指しゃぶりは子どもからのサイン

3歳前後までは、眠る前の指しゃぶりやタオルを吸ったり、縫いぐるみの耳を触ったりなどの姿が見られる子どもがいますが、まず心配ないと思います。しかし、日中の指しゃぶりは子どもからの信号と言えるでしょう。

子どもは絶えず「お母さんは自分の方を向いているかな」と確かめているのです。赤ちゃんの方にばかり手を取られていると、「指しゃぶり」をしたくなるのも無理ありません。ただし、指しゃぶりするからと言って全てが問題視する必要はないのです。

日中の指しゃぶりは遊びに疲れた時や、いたずらをし過ぎてベソをかいた時、お腹が空いた時といったように断片的に見られる指しゃぶりは心配ありません。



お母さんが忙しい時などはお父さんに相手してもらい、寂しい気持ちを和らげてあげられるよう配慮してあげたいですね。

お母さんがまずしっかり受け止め、活動的な遊びと一緒に楽しんだりすることで、指をしゃぶるひまもなくなって、いきいきと両手を使って遊べるようになると思います。（藤倉）

Question

思いやりのある子に育てほしい

2歳と5歳の女の子がいます。2歳の妹の方が、自分の思いどおりにならないと5歳の姉のことを押ししたり噛んだりします。このままでは、思いやりのない子に育ってしまうのではと心配です。

Answer

赤ちゃんは、歩くことやスプーンなどを使って食事することなど、身の回りの一つ一つを大人や兄弟のしている姿を見て自分もやってみようします。自分ができたことがほめられたり認められたりすることでさらにやる気になり、生活する力を獲得していくのです。

それと同じように他者へのかかわりかたも、周りの人が他の人にかかわっている姿や、接し方を通して学んでいるのです。今がとても大切な時です。

子どもの問題行動は大人へのサイン

お子さんがお姉ちゃんを押ししたり噛んだりするのは、周りの大人に自分の方を見てほしいとのサインかも知れません。

お母さんは、下のお子さんと二人だけで過ごす時間を工夫して作ってみてはいかがでしょうか。見て見てと言わんばかりにお母さんに甘えてきたときには、しっかりお子さんの気持ちを受け止めてあげてください。

また、自分の行動や気持ちをまだ上手にことばで表現できないもどかしさに、イライラしているのかも知れません。お子さんの行動を少し客観的に見て、何をしたかったのかを理解してあげ、怒るのではなくお母さんが「お姉ちゃんと同じようにしたかったのね」などことばで言い直してあげると落ち着くでしょう。

温かい家族の雰囲気の中で思いやりが育まれる

お子さんの行動が、危険を招きそうなときは大きな声でストップをかけることも必要です。それ以外では、あまり厳しくしかったり叩いたりすることで分からせる必要はありません。それよりも家族が互いに認め合う人間関係の中で、お子さんを育てることが思いやりのある人間へと成長して行くことにつながって行くでしょう。

2歳頃は、最初から善悪の基準が解っているのではなく、学習して自分の行動の善悪を解って行くのです。お子さんがいけないことをしてしまった時には、「お姉ちゃんのもっている〇〇がほしかったのね」など一度はお子さんの気持ちを受け止めた上で、「黙って取らないで、かしてっていうかしてくれるかな」など自分の欲求や思いをどう表現したらよいかを具体的に伝えて行ったらよいでしょう。

(山崎)



Question

たくましい子どもに育てたいのですが

幼稚園に通っている4歳の男の子がいます。親心として、たくましい子どもに育てたいと考えているのですがどのように育てたらよいのでしょうか。

Answer

おっしゃるとおりですね。これからの世の中はいろいろなことに遭遇することでしょう。自らの力で乗り越えようとするたくましい子どもに育てたいと願うことは当然のことと思います。

心も体もたくましい子どもに

最近戸外で遊ぶとすぐに、疲れたり元気を無くしたりする子どもがいます。赤ちゃんの時から冷暖房完備の部屋で育ったためでしょうか。東京都の運動能力検査では、年々体力が落ちているという結果があります。これは生活の中で体力を養うための機会が減少しているとも考えられます。

子どもと一緒にエレベーターをやめ階段を上ったり、近いところなら車をやめ、歩いたり、なるべく足腰を使うように心掛けましょう。また、親子で縄跳びや、キャッチボールをするなど、触れ合いながら体を動かすことの気持ち良さを体験することもよいでしょう。

頑張って何かを達成できた経験は子ども自身にとって、心も体も大きく成長し、たくましさも育つことになるでしょう。

自分のことは自分でできるという自信を

自分で服を着れるようになると「自分で、自分で」「やる、やる」というようになります。何でもやりたい、探索したい、試したいということは可能な限りやらせてあげましょう。

靴下が一人ではけるようになった、ハシで食事ができるようになったなど今までお母さんに何でもやってもらっていたことが、自分でできるということは大きな意味があります。すかさずその時にほめ、うれしい気持ちを共感しましょう。子どものやる気を大切にすることは心のたくましさ育てます。多少の失敗はおおらかに受け止め、困難に向かう心やチャレンジ精神を大切に、乗り越えた喜びを共に味わいましょう。

親のかかわりはほどよく

親のかかわり過ぎや干渉のしすぎは、自分から何かをしようとする意欲を失います。

しかし放りっぱなしでは子どもが不安になってしまいます。過保護でもなく、放任でもなく、愛情豊かな信頼関係を基盤に子どもを見守って、ほどよい援助をしながらたくましい子どもを育てましょう。(原)

Question

うちの子はわがままなのでしょうか？

長男 4 歳、次男 2 歳、長女 1 歳の子の母親です。2 歳の次男は要求が通らないと、ひっくり返ったり泣き叫んだりし、抵抗して大変です。ダメと言われると怒り何かが何でも我を通そうとします。その都度叱っていますが効果がなくて困っています。

Answer

自分の方を見てと言っていますね。特に真ん中のお子さんは、かかわりが少なくなりがちです。愛情を求めても、得られず不満を訴える際に親を困らせることで表してくる場合があります。また、年齢的に自我が強くなり、駄々をこねたり、自分で立ち直れず不安になったり、大人の押しが強くなればなるほど、抵抗する力が強くなったりします。

子どもの発達を見て冷静に

2 歳～3 歳頃の子どもは、要求が通らず駄々をこねたり、母親や周りの人を困らせることは、自我が育っていることであり心配ありません。困った行動ではなく発達してきたことの表れです。ただこの時、突き放したり、泣かせたりするのではなく、子どもの気持ちを「〇〇したかったの」と受け止めてあげ、子どもの気持ちを言葉で代弁してあげ受け入れてあげることが大切です。

ダメダメばかり言われて育つと子どももダメダメを連発するようになる

大人がどんな振る舞いをしているか、どういう言葉かけをしているかが大切です。大人の姿を見て、同じように行動するので言葉や行動に気をつけましょう。ダメダメばかり言われて育つと、人とのかかわり方が身につきません。反対に肯定的な言葉かけで育った場合、自分の気持ちを受け入れてくれた、認めてくれたと思い、2 歳位でも友達や兄弟が遊びに入ってきて、邪魔されたととらえるのではなく、「一緒にやろうね」と受け入れられるように成長して行きます。

また、「自分の言うことを受け止めてくれた」と言う安心した気持ちが子ども自身のよりどころとなっていきます。そして、真ん中のお子さんだけとかかわりをもつ機会をつくれるといいですね。お母さんが真ん中のお子さんの淋しい気持ちを感じながら意識していくとお子さんも変わっていくでしょう。愛情が充電されればしつてもお子さんの身について行くと思います。温かいまなざしで、あなたが好きだよという気持ちが伝われば、違ってくるでしょう。（高垣）

Question

臆病なのか、すぐ泣き出してしまいます

4 歳の男の子をもつ母親です。公園の固定遊具で遊ぶことや運動などに誘ってもすぐ「できないよ」と泣き出したりして、とても臆病です。どうしたらよいのでしょうか。

Answer

お子さんの性格はとても、慎重なのでしょう。2 歳位から行動範囲が広がり、興味をもったことをどんどん触ったり経験しようとしています。「あぶない！」と行動を止めではいませんか。また、普段の生活を振り返ってみましょう。

遊びは自由感が大事

公園にある遊具でも、お母さんが見ていると「あんな簡単な遊具なのに、何でうちの子は怖がるのかしら」と、思うことがあるかもしれませんが、目を離さず、口出しせず、子どもの様子を黙ってみてみましょう。遊具は、経験するうちに慣れて行く場合もあります。

行動が慎重な子どもは、経験を重ねないと自信がもてないのかもしれませんが、「うちの子はとても慎重な子なんだ」と、子どものありのままを受け止めてあげることが大切です。そして「○○しなさい」というような指示する言い方をさけ、お子さんの心のプレッシャーをやわらげてあげる。



また、他の子が遊んでいる様子を一緒に見ながら「なんだかおもしろそうだね」とお子さんが安心して自分からやってみようという気持ちを膨らませて行ってあげられるようにしましょう。

一緒に遊んだりしながら、遊ぶことの楽しさを共感しましょう

4 歳位になると、失敗すると笑われるのではないかと、怒られるかもしれないなど、いろいろ考えてしまうことがあります。周りがよく見えてくる反面、周りの目を気にするようになる子どももいます。公園の遊具や運動遊びなど、いろいろな遊びの楽しさを親子で共感し合えるように努力してはいかがでしょうか。

「これならできる！」と自信をもつと、子どもは次々繰り返してやってみようとしています。また、幼児期は心と体が著しく成長する時です。走ったり、跳んだりして思いっきり体を動かして遊ぶことの楽しさを味わわせていくことはとても大切です。

その中で、自分からいろいろなことを試してみようとする意欲や自信を高めていってあげたいですね。(清水)

Question

何をするにも消極的です

5歳の長男です。初めてのこと、やったことのないことに出会うと、文字の読み書きにしても、遊びにしても、スポーツにしても始める前から「できない」と言って泣きます。「楽しんでやろう」と言ってもなかなかやりません。

Answer

5歳の子どもにとって、初めてのこと、やったことのないことに出会うと不安を持つのは普通のことです。まず、お母さんから「〇〇して」と言うような働きかけを一切しないようにしたいかがでしょう。この子どもさんの場合、絶えずお母さんからテストされていると感じているかもしれません。何をしても、お母さんから“困った子”と思われるのではないか。お母さんをがっかりさせるのではないか。などと心配し、「できなかったらどうしよう」という気持ちが広がって、何もできない状態になってしまうのではないのでしょうか。

自分から進んでやろうとしたことを大切に

何かを始めようとする前に「できなかったらどうしよう」と思えることは、そのお子さんにとっての成長です。特にいろいろなことを敏感に感じたり、慎重な面をもったお子さんにとって、自分から進んでやろうとすることはとても勇気のいることなのです。そのうえ自信を失いかけていることもあると思います。そこで、どんなことでも自分からやろうとしたことを大切に、自信をもたせてあげるようにしましょう。

ありのままの姿を認める

自信をもたせてあげるための方法として、お母さんが子どものありのままの姿を認めてあげることです。お子さんが初めてのことに挑戦しようとしたり、できるようになるまで繰り返し頑張ったりしたら、「よくやったね」など具体的な言葉で、褒め励ましてあげましょう。

また、お子さんと一緒に遊んだり、考えたりする中で得意なものを発見してあげましょう。また、達成感や満足感を味わえるように手伝ってあげることも大切です。その積み重ねによって少しずつ自信が持てるようになります。一つのことに自信が持てようになると、さらに頑張ろうとする意欲も出てくるでしょう。（高橋）

Question

片付けができません。自分の事は自分でさせたいのですが

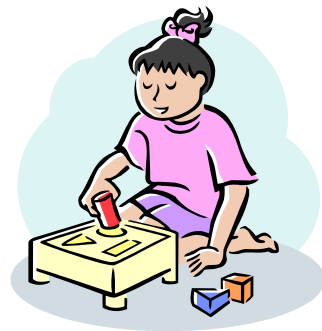
片付けができずに困っています。絵本もブロックも出すだけだしてそのままです。つい「早く片付けなさい！」とどなってしまいます。小学校を目前に一つ一つ言わなければならないのが心配です。ついやってあげてしまうのがいけないと思うのですが。

Answer

小学校入学を前に自分の事は自分でと思う気持ちはよく分かります。片付けだけでなく日頃の生活の中で身の回りの事についてもどうでしょう？いつのまにか大人の気持ちが優先しがちで、お子さんのやろうとする気持ちはどうでしょうか。怒鳴られたり、やろうとする前にやってもらう事が続いたらなかなか習慣として身につくのが難しいかもしれません。

子どもの意欲をそこなう指示や強制

お母さんの願いが「～なさい」「～しないとダメ！」指示と強制ばかりになると、お子さんはしかたなく、言われて片付ける行動パターンをくりかえし、片付けて気持ちがいいとか、おもちゃにもいろいろな形や種類があるんだななど、片付け方や、気持ちを味わうゆとりがなくなってしまう。さらに、自分で片付けた満足感を味わうことなく、言われて行動することが習慣化していることにもなりかねません。



自分でできる満足感を味わえる体験

「お友だちと遊んで楽しかったわね」とまずお子さんの気持ちを受け止めてから一緒に片付けたり、おもちゃが出ていて困る事等、片付けの意味を伝えたり一緒に考えるのもよいでしょう。やがて自分から片付けられるようになったことで誉めてもらったり、感謝されたり、自分でする事の満足感を味わうことを通し自分の事は自分でする習慣が身に付いていくのです。

こうした経験や学習の積み重ねがやがて自分で考えて行動する(自主性)と育てて行くのです。(鈴木)

Question

片づけなくて困ります

3 歳の男の子です。次から次へとおもちゃを出して部屋中がおもちゃだらけ。「片づけなさい」と言ってもやりません。どうしたらいいでしょうか。

Answer

片づけることも遊びの続きで行えるように

広いスペースのある部屋でしたら、おもちゃを散らかしたままでもいいかもしれません。

でもたいがいの場合、ごちゃごちゃ散らかした中で食事をしたり、おもちゃが散らかったままで布団を敷くのでは良い習慣が身につきません。片づけることも遊びの続きで行えるようにお母さんも一緒に楽しく行うようにしましょう。片づけた後は気分がすっきりしますよね。

子どもは散らかす方が片づけよりずっと得意です

3 歳頃の子どもの遊びを見ていると、積み木で家を作っているうちに人形を持ち出し、人形を動かしているうちに“そうだ電車をつくろう”とブロックを出して部屋中に線路が広がります。次から次へと遊びが移って行くので、ふと気が付くと部屋中おもちゃだらけということになります。子どもの楽しそうに遊ぶ姿が目に見えますね。

具体的に声をかけ教えましょう

お母さんが急に「さあ片づけようね」「片づけなさい」と言っても、どうやっていいのかわかりません。

3 歳位でしたら具体的に片づけ方を示してあげるといいと思います。「積み木はこの箱でおやすみなさい」「次は人形をここにねんねだね」「ブロックはこの箱。またあした」と言う具合に全部自分の大切な仲間です。所定の場所に戻すまでが遊びととらえて、時間をたっぷりとお母さんも一緒に手伝ってあげてください。おもちゃの一つ一つを大切にしまうための大きな箱、きれいな紙を張った箱、かわいいシールを貼った引き出しなど片づけやすいように工夫してあげるといいと思います。

保育園では、みんなで一緒に「これどこだっけ？」「おうちにもどしてあげようね」など声をかけながら、元あった場所に分別して片づけるようにしています。家庭では、どうしてもそのままにしておきたい物は、もちろんそのままにしておいて上げることもいいでしょう。

片づけも遊びの一つとして楽しみながらやりたいですね。明日もまた遊べるように、おもちゃや物を大切に作る心を育てるいい機会です。物にも愛情をもった関わり方をするお母さんの姿が子どもも感じ取って行くようになるでしょう。(三城)

Question

夜泣きをするので困っています

満 1 歳のお誕生を迎え、保育園に預けた 1 歳 1 カ月の女の子ですが、最近夜泣きをするようになり困っています。
主人も私も寝不足気味で、翌日の仕事に差し支えるのではと心配です。どのように対応したらよいでしょうか。

Answer

満 1 歳位の時期は、日中いつもと違ったことを経験した場合には、その興奮や不安から夜泣きが起きることがしばしばあります。例えば大勢の人にあった、騒がしい場所に出かけた、見知らぬ人に抱かれた、などいろいろあります。

深夜、家族が寝静まった頃に泣かれるのは困りますよね。家族皆が寝不足になってしまいます。イライラが募ると虐待につながる可能性も生じてくるでしょう。

お子さんの場合ですと、お母さんと一緒に過ごされた静かな環境から一変して、賑やかな保育園生活に入っただけで 1 カ月です。精神的にとっても不安定な状態に陥っているのではないのでしょうか。

安心させる方法

- 次のような事を行ってみてはいかがでしょうか
- ・やさしく話かけながら、布団の上から軽くトントンたたいてあげる
- ・抱き上げて、体をゆりかごのようにゆったりと揺らしてあげる
- ・喉が渇いているようなら、さ湯を飲ませてあげる
- ・ミルクやおっぱいを飲ませて、様子を見る
- ・オムツがぬれていたら取り替えて、さっぱりさせる
- ・どこかにトゲや髪の毛、チクチクしたものが刺さっていないか確かめる
- ・しっかりと目を覚まさせ一度眠りを断ち切ってあげるなど

夜泣きが続くようなら相談を

あまり夜泣きが長く続くようでしたら掛かり付けの小児科医に相談したり、お子さんの通っている保育園の先生にご相談されることをお勧めします。また、お子さんが寝る部屋の照明や、テレビの音などに気をつけ、お父さんお母さんもお子さんと一緒に寝てしまうなどして、親子ともに疲れをためないような工夫をしてみてください。

健康面でのチェックも忘れずに

生活リズムは整っていますか。決まった時間に寝て、気持ち良く朝目覚めているか。食事でも決まった時間にしっかり取れているかなどです。生活リズムが乱れてしまうと、不機嫌になりやすいものです。健やかな育ちのためには、生活リズムを整えてあげることは大切なことです。(梶原)

Question

何をする時も「いやだ」を連発して困っています

2歳5ヶ月になる男の子ですが、最近私の言う事を聞かなくなりました。お風呂に入る時や出かける時など、何をする時も「いやだ」を連発して困っています。我がままが出てきたように思います。

Answer

いや！いや！の時期

2歳児の一番好きな言葉は「いや！」と言われる位、お母さんの思うようにならない時をむかえましたね。今までお母さんの言うことを聞いていただけに、つい感情的にもなりがちです。

「ぼくはこうしたい！」「お母さんの言いなりになりたくない」と自己主張し始める時期です。今まで母親にすべて依存してきた子どもが「自分で！」「自分でやる！」と自分を主張しているのです。

「我がままが出てきた」「言うことを聞かなくなった」と嘆く前に、自分を主張できるようになったと、子どもの成長を喜んであげたいものです

心を育てるかわりとは言うものの

こうした場面に出会うとどう対応してよいか迷ったり、「ダメ！ダメ！」と拒否しがちです。感情的に叱ったり、無理矢理思い通りにさせようとするのはかえって逆効果です。子どものやる気をそいだり自己表現をおさえることにもなりかねません。

親のいうことを良く聞いている子が中・高生になって様々な問題行動を起こしている例が、最近多くみられることを考える時、この時期のかかわりがとても大切になってまいります。しっかり抱きしめてあげたり、暖かく見守り耳を傾けるなど、子どもの気持ちをまず受け止めてあげることが大切です。

「～したかったのね」等と子どもの気持ちを受け止めてから、お母さんの思いをゆっくり話して聞かせたり、時には「いけないこと」をはっきり「いけない」と伝えることが大切です。



育児は共育て

本来「躾」というのは、時間をかけて繰り返し繰り返し言葉や行動で伝えて行くものです。愛情豊かなこの繰り返しのかわりが子どもの心を育て、待つことを通してお母さんも育てられるのです。(鈴木・亀卦川)

Question

いつまでも母親にべったりしています

5歳の女の子です。乳児の時大病をして、つい甘やかせてしまいました。幼稚園では他の子どもたちが母親から離れて遊んでいるのに、わが子はいつまでも母親にべったりしています。どうしたらよいでしょうか。

Answer

お母さんに甘えたい思いを、まずは受け止めてあげてください。小さい頃大病をしたということもあり、大事に育てられてきたのでお母さんへの思いや、依頼心が大きいのでしょう。お子さんのありのままの姿をまずは受け止めてあげ、心の不安定さや寂しさ、どうしたらよいかわからない気持ち、甘えたいなどの気持ちに共感し、十分に受け止められることで安心するものです。

同じ年齢の子と比較しない

小さい時から大切に育てざるを得なく、他の子どもとは養育の状況が異なりますので比較しないでください。比較されることによっていじけたり、人を嫌ったり、自分はだめだと思ったり、勝ち負けにこだわるようになってしまいます。できるだけ心の安定をはかり、支えてあげましょう。

お子さんの自立できる方向づけを

幼児の自立は基本的欲求(食べる、寝る、清潔、安全、愛情欲求)等が満たされることにより、自ら成長しようとする力や心情が生まれます。そのため母親との信頼関係が最も大切なこととなります。

大人との信頼関係をベースに、自分からやろうとする気持ちや自分をコントロールする気持ちを支え育みましょう。子どものできることから少しずつ自立の方向に向けていきましょう。

遊びの友達をつくりましょう

友達と遊ぶことが楽しくてしょうがないという体験を増やすなど友達ができる環境を作りましょう。子どもは遊ぶ中でお互いに自己主張します。ぶつかり合いやめごとで、他の子どもの要求を知ったり、周りの状況にあわせて遊んだりすることで自分も楽しめるということを体験します。この積み重ねが重要になります。

生活のなかでの人とかかわりに安定感をもち、遊びや生活が楽しくなると自然にお母さんにべったりすることが消えてくるものです。(原)

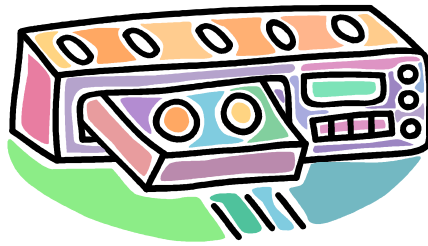
Question

ビデオデッキをおもちゃ代わりにさせてもよいですか

2歳になる男の子です。タンスの上に置いてあるビデオデッキにテープを入れたがり、大声を上げて泣き叫びます。いっそのことタンスの上からデッキを下ろして本人の気の済むまでやらせようかと思いますがいかがなものでしょうか。

Answer

何にでも興味を示すのが2歳児



ビデオデッキの中にテープが吸い込まれていく様子や、ボタンを押すと中からテープが出てくるのを見るのは、子どもにとっては大変興味深いことでしょうね。2歳の頃と言えば目にするものは何でも触ってみたい、やってみたいと思う好奇心いっぱい時期。お子さん

のやりたい気持ちを受け止めてあげる事はとても大切なことです。

しかし、やらせてあげられる事とあげられない事があることを知らせなければならぬのもこの時期です。「これは大事なものだから大切にしようね」と繰り返し教えていきましょう。

価値観を伝えていく大切な時期

高価なものや触られると困るものは、極力子どもの目に触れる場所には置かないようにしたいですね。とは言ってもそれぞれのご家庭にはスペースの問題もあり、難しいことですね。カーテンをすとか布をかぶせるなど見えないように工夫してみてください。泣いてやりたがったからと好きなようにさせていたら、よその家に行った時にビデオを見つけて、お母さんをてこずらせることにもなりかねません。おもちゃとして扱ってはいけないものは、はっきりと知らせましょう。

楽しめる環境作りを

2歳といえば自分の思いどおりに、やりたいことがやらせてもらえなかったりすると、泣いて思いを通そうとするパワーやエネルギーはすごいものがありますね。しかし、大人のかかわりかた次第で他に気持ちを切り替えさせることも容易な時期でもあります。他にもっと楽しい遊びがあることを知らせていくと良いでしょう。気分転換にお散歩に出かけてみるのも一つです。また、空き箱を使っっての手作りおもちゃも楽しいでしょう。泣かれて困ってしまう前にまずは、子どもさんの身の回りに置かれている物のチェックをしてはいかがでしょうか。お母さんの工夫で子どもの気持ちが落ち着くような楽しい環境作りをしてみましょう。(梶原)

Question

私の考えは間違っているのでしょうか

2歳の男の子です。地下鉄の広いホームで息子が走りだしたので、一緒に鬼ごっこをしました。息子のやりたい気持ちを大事にしたいと思ったのですが、他人に叱られてしまいました。私の考えは間違っているのでしょうか。

Answer

子どものやる気を大事にすることは大切なことですが、人間として生きていくうえで、やって良い事と悪い事をその場で親が教えたり、手本を示していかなければなりません。また、社会生活での公衆道徳や物事の判断は大人が教えていくことです。

交通機関での遊びは危険でもあるし、周りに迷惑をかけるので、幼い頃から正しく教え、繰り返しながら身につけていくようにしましょう。

公衆の場では

公衆の場である病院で待っている間や、電車の中での過ごし方は子どもであっても、やっていい事、悪い事をはっきり教えていかなければいけません。2歳はやんちゃ盛りで何でもやりたがりますし、体で体験して覚えていく時期ですので、しっかり躾けたいものです。他人に注意されてしまったということは、余程目に余る光景だったのでしょうか。気付いて声をかけてくれる人がいてお子さんが危険にさらされなくて助かりましたね。

病院や電車の中では、母親のそばで静かに過ごすことができるよう出掛ける前から絵本やお絵かき帳など子どもの好きなものを用意し、騒がしくならないように気をつけなければなりません。

普段からの心掛けとして、子どもだから少しくらいうるさくてもしょうがないという甘えた考えはやめ、親は子どものしたことへの責任をとれるよう自覚すべきです。

母親がお手本を

何と言っても母親の行動がお手本です。忙しい時でも信号などを守って渡り、子どもに行動で示してください。子どもは体験した事を体で覚えるのです。いざと言う時に「あの時こうした」という場面を思い出し、瞬間的に行動に現れるのです。母親の行動を通して子どもは学ぶのです。ちょっとしたことでも見逃さず真似するので、母親や父親によく似て来ますね。最大の環境は親自身なのです。
(栗田)

Question

自分でやってみないと気が済みません

4歳の女の子です。小学校1年の兄と2歳の弟がいます。本人は、目にしたものを触ったり試したりしないと気が済まないらしく、じっとしていることができません。どうしたらいいのでしょうか。

Answer

何でも自分でやってみなければ気が済まないお子さんですと危険なこともありお母さんとしても大変ですよ。随分と興味関心のあるお子さんだと思います。幼児が興味や関心をもつ事はとても大事なことですし、さらにやってみようとする意欲がもてることは素敵なことです。“じっとしていることができない”と捉えるか、“興味関心の強い実行力のある子”と見るかによって子どもが伸びようとする芽の育ちも違ってきます。

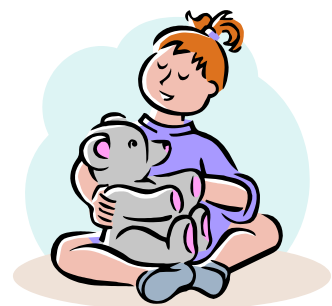
「やってみたい」気持ちを大切に

虫の動きや花をじっくり見たり、好奇心をもって触ったり試したりすることは子どもの心が動いている証拠です。飽きずに繰り返し試すか、実際に体験することによって感性が育っていくのです。

例えば、大人から見ればくだらないような泥団子作りも、堅い泥団子を作るためにいろいろな試行錯誤や工夫が必要になります。そこでお子さんが遊んでいることをやらせっぱなしにせず、お母さんが関心を示し「おもしろそうだね」「へーすごい！」とかかわりながら共感してあげることによって更なる学ぶ力のステップになります。お子さんの“やってみたい”を、大切に育ててあげてください。

良い・悪いを教えるチャンスに

子どもの好奇心はとめどなく膨らんでいきます。危険なことや社会のルール及びマナーなどをかわりを通して教えるチャンスの時でもあります。触りたいという気持ちを受け止めながら「危ないこと」や「してはいけないこと」は、きちんと教えていきましょう。但し、単に「だめだめ」と行動を阻止したり制御ばかりされていると、自分をコントロールする力が育ちにくなったり、我慢ばかりすることにより恐怖心が強くなったり、臆病になったりしかねません。しかし、どうして危険なのかどうすれば危険なことを防ぐことができるのか、他人に迷惑をかけることは自分でもしてはいけないことなどいねいに教えてほしいと思います。子どもだから仕方がないではなく、子どもの時からしっかりと手を取って伝えつつ、興味や関心を育てていきたいですね。(林)



Question

爪噛みが……

2歳の男の子と1歳の男の子がいます。2人とも保育園に預けて勤めています。下の子は問題ないのですが、2歳の兄の方が最近ぼんやりしている時に爪を噛んでいます。見つけた時「汚いから」と止めさせますがなかなか治りません。

Answer

爪を噛むのを止めるように言ってもなかなか治らないでしょう。癖のように見えますが、爪を噛むのは、噛まなければいけない気持ちだと言うことを考えてみましょう。1歳違いの弟がいて手がかり、お兄ちゃんには言葉で言い聞かせることが多くなっていませんか。2歳と言えばまだ母親を独占したい頃です。寂しいのではないのでしょうか。お母さんの愛情(スキンシップ)を心掛けることによって寂しさが和らいでいくでしょう。

子どもにとってお母さんが一番

幼ければ幼い程お母さんの存在は大きいものです。下に赤ちゃんができて殆どお母さんの手はその子にかかり、お母さんに近付くことも甘えることも遠慮して出来ないのではないのでしょうか。ぼんやりしているように見えても、大人が思う以上に複雑な感じ方や、思いをしているものです。「何時もお母さんは僕の事を一番大事にしてくれるんだ」と思っていたのに弟の出現で「僕のお母さん」と感ずることができなくなったのではないのでしょうか。一人ぼっちと不安が、体からのサインとしての爪噛みになったのではないのでしょうか。

弟の世話をお母さんと一緒に

兄弟の世話をしながら働いているお母さん、さぞかし忙しい事と思います。お母さんが大変な時は、お兄ちゃんに赤ちゃんの世話を手伝ってもらってはどうか。

例えば「お兄ちゃん、ガラガラもってきて」「ありがとう」と言いながら頭をなでてあげ、下の子には「お兄ちゃんが持ってきてくれてよかったね」と言うなど、お兄ちゃんが大切な存在なんだとお母さんの言葉を通して感じさせていくようにすると、だんだんと兄弟が仲良くなっていきます。

下の子が眠っている時などは、お兄ちゃんを膝に乗せて絵本の読み聞かせなどして、たっぷり愛情を注いであげましょう。気持ちも安定して爪噛みも徐々に少なくなるでしょう。(栗田)

Question

道にとびだして困ります

4歳の男の子です。いつも幼稚園への行き帰りや外出する時に走らないようにと言うのですが、すぐに駆け出してハラハラさせられます。何度言っても聞きません。事故に遭ったら心配です。

Answer

子どもは楽しい時や、嬉しい時などには心がワクワクして走りだしたくなるのが普通です。しかし、交通事故の危険性がある場合、止めるのも聞かずに走りだしてしまうと心配ですね。

“子どもの自主性を大事にしよう”と危険なことを制止できないようでは、子どもの生命を守ることができません。交通事故にかかわらず命にかかわる事においては、断じて制止しなければならない場合があると思います。そのけじめを見極めることが必要です。



親子の信頼関係を

4歳の頃は『体を動かしたい』『見てみたい・やってみたい』と視野が広がって行動的になります。じっくり分かりやすく話してあげるとどんどん吸収してわかるようになっていく時期でもあります。この時期に交通ルール・社会でのルールをしっかりと教えていきましょう。

お母さんが何回注意しても聞かないということは、日頃からお母さんの言葉を意識していないのではないのでしょうか。まずはお母さんが子どもの話をしっかりと受け止めてあげることが大切です。お母さんがしっかりと受け止めてあげることによって、子どももお母さんの言葉を受け止めることができるのです。

お母さんがお手本を

いろいろな危険から守ってあげられるのはお母さんです。家を出る時から手をつないで歩くように約束するなど心掛けることです。余裕をもって家を出てゆっくり交通ルールを守って行きましょう。まずはお母さんがしっかりとモデルとなりましょう。

最近のニュースに自転車に撥ねられて亡くなったとありました。自転車もかなりのスピードで走ってきます。その上ルールを無視した乱暴な走行も少なくありません。お母さんが子どもに「危なかったね」「気を付けて歩くようになったね」と声をかけながら、正しい道の歩き方を身につけて行くようにしましょう。(高橋)

Question

わが子の行動が許せない

5歳の男の子の母親です。最近、自分で気に入らないことがあると一人で廊下の隅でブツブツ何か言ったりしています。近づく「あっち行け」と物凄い勢いで拒否します。何を言っても素直になれない子どもが許せなくなってしまうです。

Answer

5歳ともなると、自己主張が強くなりますね。子どもの言いたいことややりたいことが増えてお母さんと意見が合わなくなるのもこの頃ですね。子どもに我慢させる事が多いのか、頑張ってやればできると励ますことが多いかによって子どもの傾向性や、性格に影響があるような気がします。お母さんの許せなくなる気持ちも分かりますが、お母さん自身の気持ちをコントロールする方法を深呼吸して考えてみましょう。

「大きくなったんだね」と受け止めてあげましょう

食事の時間や、幼稚園の行き帰りなど普通に過ごしている時は、お子さんも落ち着いているのではないのでしょうか。そんな何げない時を大切にし、おしゃべりしたり考え合ったりして過ごせたらいいですね。

聞いて欲しいことが聞いてもらえないということが何度か繰り返されると、子どもも「どうせ分かってもらえない」と思ってお母さんを拒否したり、素直になれなかったりするようになります。丁寧ににかかわり合うように心がけましょう。いつまでも子どもだと思っていたのに、大人びたことを言ったり、反抗したり、自分の考えを言ったりして驚くこともあるでしょう。子どもはグングン成長しているのです。

親の言うことを聞かず口答えしたり、反抗したりすることは、大きくなったということですね。そんなお子さんを抱き締め、「大きくなったね」と言ってあげて欲しいと思います。

気持ちの立て直しの努力

幼稚園や保育園の集団生活は、自分の思うようにいかないことがあることを学ぶ所です。友達と意見が合わなくてけんかをしたり、泣いたりする場面も多くなります。

やがて、自分なりに気持ちのコントロールができるようになります。5歳の頃はその練習とも言えるでしょう。気持ちをコントロールすることは、大人でも難しいことです。お子さんは、いろいろな人とかかわりながら気分転換することや、気持ちを立て直すことを学んでいるのです。(樋口)

Question

急に言うことを聞かなくなってしまう

5歳の男の子です。普段は洗濯物をたたんでくれたり、弟のめんどうを見てくれたりしますがちょっとしたことで、言うことを聞かなくなり赤ちゃんのように甘えてきます。どうしたらよいのでしょうか。

Answer

幼児は、大人との信頼関係を基盤として大人に頼りながら自立に向かう時期です。つまり、いつも自分は愛されているという支えがあるから自立へ向かうことができるのです。物分かりがよくなったりするときもあれば、あるときはお母さんの膝に乗って甘えてきたりします。いい子になったかと思うと言うことを聞かなくなったりという状況でも、決してちっとも成長していないなどと焦ることはありません。どの子にも見られるごく当たり前の姿なのです。その表し方がお子さんによってそれぞれ異なります。

成長を認めてあげましょう

洗濯物をたたんでくれたり、弟のめんどうを見てくれるようになったお子さんの成長した姿を認めてあげましょう。「○○ちゃん、ありがとう」「お母さんとても助かるわ」などと笑顔でお子さんの行為を認めてあげることで、お子さんは自分の存在感や満足感がもて、大人の仲間入りができたような喜びを感じることができます。

また、お母さんの喜ぶ姿に接して、お母さんの手伝いができてよかったと心から思えるし、人に喜んでもらえる気持ちよさを体験することもできます。

お母さんはいつもぼくの見方

たとえお子さんの身体が大きかったとしても、5歳はまだ不安定な部分が沢山あり、自立するためにいろいろな状況や姿で表現してきます。

お母さんにとって都合のいい時はお子さんにとってどうなのでしょう。ちょっと考えてみましょう。ありのままの姿を出して、素直に甘えて膝の上にのってくるお子さんは、おかあさんとの信頼関係が結ばれている証拠です。何かにつまずいてちょっとしたことで機嫌をそこねて甘えてきた場合には、その気持ちを受け止めてあげ、甘えさせてあげてください。甘えてくることをお母さんが不快に思ってしまうと、お子さんを受け入れてあげないとよけいによねたり、だだをこねて困らせたりします。お子さんを安心させてあげることが一番です。そこでお母さんと母親との信頼関係を築く絶好のチャンスと捉え、どんな時でもいつも温かい心でお子さんを受け止めてあげる心のゆとりをもつことが大切です。(鈴木)



Question

急に母親から離れなくなった長男

3歳の長男と生後6ヶ月の次男の母親です。長男は次男が生まれてから少しの間も私から離れて遊ばなくなりました。幼稚園の入園も考えているので心配です。

Answer

長男は2歳半位までずーっとお母さんを独占していたのですから弟の誕生によって気持ちが不安定になっているのでしょう。お母さんの忙しさも倍になり、同じように愛情をかけているつもりでも今までのお母さんの姿と違うのがなんとなく分かるのですね。長男に向けられているお母さんの思いを整理してみましょう。

僕の方に目を向けて

お母さんには弟が生まれたことにより、長男を早くお兄ちゃんとして自立させたいという願いがあるのではないのでしょうか。でもやっと3歳です。お母さんが一番なのです。「僕のお母さん」でいてほしいのです。遊んでいるところと一緒にいてほしいのです。「外で遊んでいらっしやい。お母さんはお家にいるからね」と言っても「お母さんと一緒にいる弟はいいな」と思うのです。だから離れられないのです。少しの間でも長男と一緒に遊ぶ機会をつくったり、弟を連れて公園に出かけ、「ここで見ているからね」とそばで見守っていてあげたりして、徐々に僕が一番愛されているんだという心の安定ができてくると思います。

赤ちゃんも可愛いね

弟が生まれた喜びを長男も一緒に感じていけるようにしてあげることが大切です。赤ちゃんのオムツを持って来てもらったら「ありがとう」と笑顔でお礼を言って頭をなでてあげましょう。赤ちゃんのミルクと一緒に作ったりする中で、「ミルクおいしいかな」「赤ちゃんのところまで持って行ってくれるかな」「ありがとう助かるわ」などさりげなく声かけしてあげることにより少しずつ自分の存在に気づいていく事でしょう。

幼稚園の入園については急ぐ理由がないのであれば、3年保育でなくても2年保育からでも充分集団生活に適應していけるでしょう。今、弟ができて不安になっているときで徐々にお母さんとの心の結び付きを作る段階ではないのでしょうか。もう一度ご家族で相談なさってはいかがでしょうか。（藤倉）